令和4年1月３１日

園芸販売情報 Ｎｏ.

ＪＡ全農みやぎ 園芸生産振興部

「 い ち ご 」販 売 情 報

１．東京都中央卸売市場取扱実績

⑴ いちご類

月	旬	入荷量（t）	価格(円/kg)	前年対比（%） 数量	前年対比（%） 単価	主産地構成比(%)
10	上旬	12	*2324*	234.3	*84.0*	北海道 (51.4) 青森 (23.6) 長野 (18.0) 宮城 (2.3)
	中旬	11	*2204*	239.7	*79.0*	北海道 (41.1) 青森 (19.9) 長野 (18.6) 栃木 (8.4)
	下旬	27	*2909*	375.0	*86.6*	栃木 (64.4) 北海道 (8.8) 茨城 (8.3) 静岡 (6.9)
10月実績		51	*2630*	292.1	*85.0*	栃木 (35.7) 北海道 (26.8) 青森 (12.2) 長野 (10.8)
11	上旬	91	*2409*	480.7	*66.5*	栃木 (80.2) 茨城 (10.6) 静岡 (2.4) 北海道 (1.3)
	中旬	251	*1968*	288.4	*76.7*	栃木 (74.0) 茨城 (14.6) 静岡 (4.1) 福岡 (3.2)
	下旬	448	*1890*	135.1	*91.1*	栃木 (66.1) 茨城 (15.7) 福岡 (8.4) 静岡 (5.1)
11月実績		790	*1975*	180.5	*88.2*	栃木 (70.2) 茨城 (14.7) 福岡 (5.8) 静岡 (4.4)
12	上旬	630	*1887*	107.9	*96.6*	栃木 (62.0) 茨城 (13.0) 福岡 (8.4) 静岡 (6.9)
	中旬	792	*2270*	83.9	*111.3*	栃木 (51.0) 福岡 (12.9) 茨城 (10.2) 静岡 (9.5)
	下旬	879	*2661*	71.6	*123.0*	栃木 (46.6) 福岡 (15.5) 静岡 (12.0) 茨城 (10.2)
12月実績		2300	*2315*	83.5	*111.4*	栃木 (52.3) 福岡 (12.7) 茨城 (11.0) 静岡 (9.7)
1月上旬		966	*2033*	67.9	*132.8*	栃木 (45.1) 福岡 (20.6) 茨城 (10.6) 静岡 (7.9)
1月中旬		1254	*1791*	96.7	*125.1*	栃木 (46.3) 福岡 (18.3) 茨城 (10.7) 佐賀 (7.6)

２．販売状況

ア．今年産各産地の生育が前倒しとなり、10 月の出荷量は例年よりも多く価格帯も軟調相場で推移した。業務階級に関しても、出荷が早まっていることから潤沢な出荷となっていたため、荷動きは鈍く、在庫を抱えながらの販売になった。栃木県産などの出荷は下旬には出揃っており、出荷量は平年よりも非常に多く。京浜市場においては、A 品 500-400 円/P での販売で、売場を広げていく販売となった。

イ．11 月に入るも、引き続き各産地順調な出荷となり、厳しい販売となった。量販店中心に 500-400 円/ｐの価格帯でも売り込むも、新型コロナが収束に近づいたことから、旅行や外食へ消費者が流れた。その影響から量販への客足が少なくなり、末端消費の荷動きは鈍い状況が続いた。一方、競合品目の柿、リンゴ、みかんについては不作の影響で出回り少なく、高値販売となり、いちごよりも荷動きは鈍い状況となった為、量販店はいちごメインに売場を広げて荷動き改善を図った。下旬に入り数量更に増えたことから各販売先は 400 円前半で売込みをかけていった。

ウ．12 月に入り、量販の売場も 498 円/ｐでのいちごが増えてきたことや売場も広がったこともあり、注文が増え荷動きも順調となった。中旬に入ると小売り向け中心の売場が徐々にクリスマス向け業務に移り、業務階級中心の出荷に変わっていった。本年産は全国的に前倒ししており、クリスマス需要期に数量不足となる情報が先に流れたことにより、輸入物や別品目にお客が流れた。また、前倒しで納品する業者も多かったことから、例年よりもクリスマス需要向け業務の注文が少ない状況となった。その為、相場についても需要間際まで上がりきらず、最終的にはＬ 1000 円、Ｍ 800 円での販売となった。クリスマス需要が終了し、年末向けの販売に切り替わり大玉レギュラーパックへの注文に切り替わっていった。下旬に入ると、各産地の出荷が端境となり大玉の出荷量が減少した。また増量予定であった九州産地についても、生育が悪く出荷量が伸び悩み、全国的にいちごの数量不足となった。絶対量不足により相場は 60-550 円/ｐまで高騰しての販売となった。その結果、末端売価が 980 円/ｐになる量販も出始めた為、荷動きは鈍く推移した。

エ．1 月に入り、年末年始の需要も終わったことから、価格帯を落としての販売となった。相場は 380 円/ｐとなり、全国的な増量に備えて売込をかけたものの、1 月上旬は全国的な寒波に見舞われたことや産地によっては降雪があったことで、腋果の生育が例年よりも 10 日以上遅れ、数量が引き続き少ない状況となった。下旬に入り、各販売先は増量に備え、相場下げて売り込む体制を取りたいが、数量が増えてこない為、欠品が続いてしまっている。その中、末端の売価は 800-650 円/ｐでの価格となっており、末端消費は鈍い。

1 月末に入ると全国的にもＦＡ中心に出荷増量し、非常に厳しい販売となっている。投げ物も増えており、ＦＡ 40-380 円/ｐで取引している業者も出ている状況。レギュラーについても高悩みの影響と数量不足により売場が広がりきっていない。